



2026年5月14日

呉ロータリークラブ講演資料

呉から未来へ、110周年の感謝を込めて

東洋証券株式会社 代表取締役社長

小川 憲洋



東洋証券とは

「信頼」「付加価値」「得意分野」の経営理念のもと、地域密着型のリテール証券会社として、お客さまの資産形成をサポートしております。



当社の強み

Point1

- 中国株のパイオニア

Point2

- 地域密着 × 対面サポート

Point3

- 独立系証券会社



会社概要

(2026年3月31日現在)

名称 (英訳名)	東洋証券株式会社 (TOYO SECURITIES CO.,LTD.)
本社所在地	〒104-8678 東京都中央区八丁堀4-7-1
上場市場(コード番号)	東京証券取引所プライム市場(8614)
設立	1934年4月
資本金	134億9468万7500円
従業員数	650名
決算期日	3月31日(年1回)
会計監査人	有限責任 あずさ監査法人
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
登録番号	関東財務局長(金商)第121号 日本証券業協会 一般社団法人第二種金融商品取引業協会 加入
登録年月日	2007年9月30日
会員または取引参加者となる 金融商品取引所の名称 または商号	東京証券取引所/大阪取引所/名古屋証券取引所/福岡 証券取引所/札幌証券取引所



(広島スクエア 広島支店)

ネットワーク

中国地方

- ①福山支店
- ②府中営業所
- ③三原支店
- ④呉支店
- ⑤広島支店
- ⑥浜田支店
- ⑦出雲支店
- ⑧岩国支店
- ⑨徳山支店
- ⑩山口支店
- ⑪宇部支店
- ⑫下関支店

四国

- ①今治支店
- ②中村支店

九州

- ①福岡

香港

東洋証券亞洲有限公司

東北

- ①仙台支店

関東

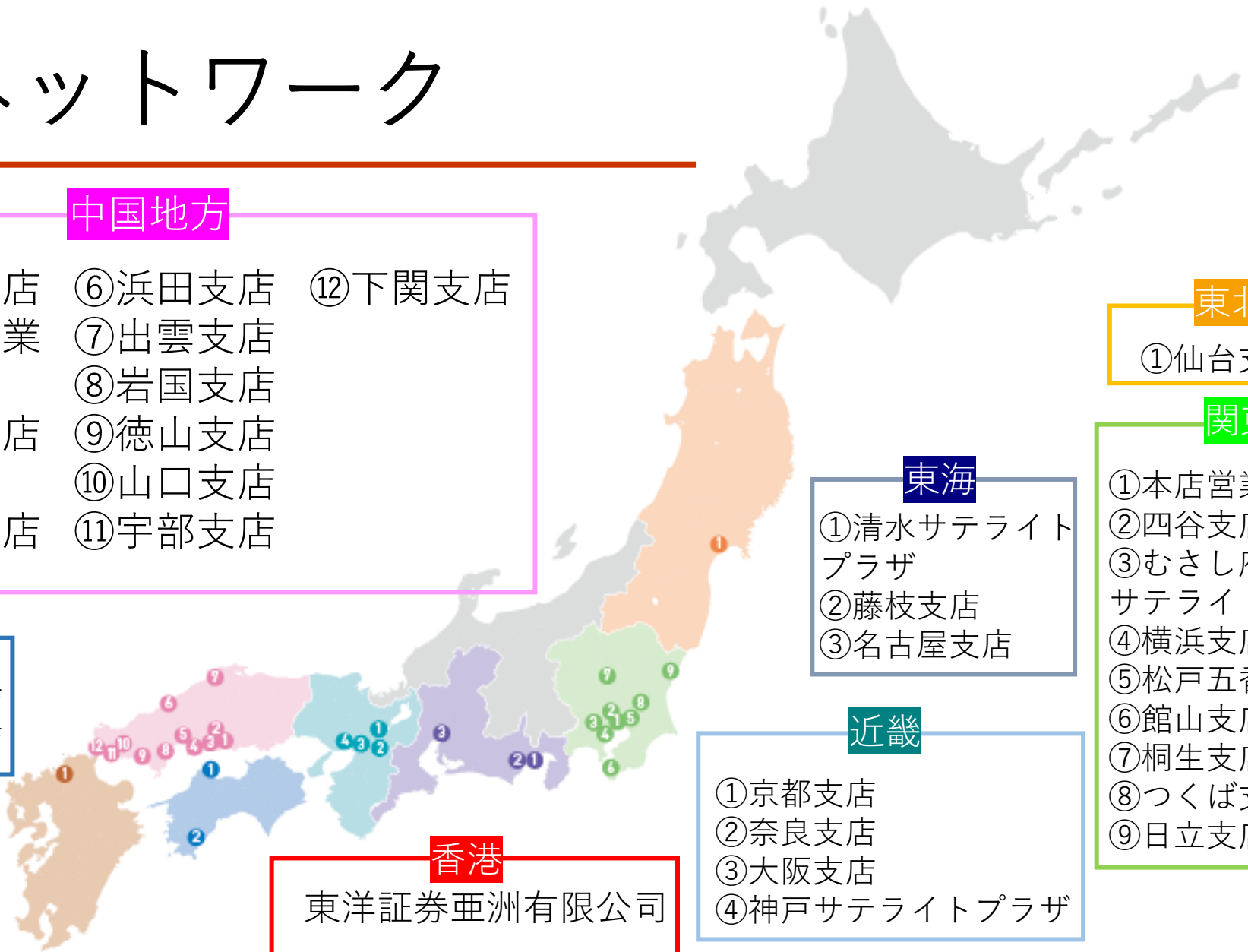
- ①本店営業所
- ②四谷支店
- ③むさし府中サテライトプラザ
- ④横浜支店
- ⑤松戸五香支店
- ⑥館山支店
- ⑦桐生支店
- ⑧つくば支店
- ⑨日立支店

東海

- ①清水サテライトプラザ
- ②藤枝支店
- ③名古屋支店

近畿

- ①京都支店
- ②奈良支店
- ③大阪支店
- ④神戸サテライトプラザ



沿革

年月		沿革
1916年	12月	広島県呉市に証券業を目的とする齊藤正雄商店(広島証券の前身)を創業。
1934年	4月	広島株式取引所員齊藤正雄商店の現物部を独立して、広島証券商事株式会社(資本金125千円)を設立し、本店を広島県広島市に置く。
1947年	7月	商号を広島証券株式会社に変更する。
1967年	3月	高井証券株式会社と合併し商号を広島高井証券株式会社に変更し、本店を広島から東京・日本橋に移転する。
1968年	4月	証券取引法の改正に基づく証券業の免許を受ける。
1971年	12月	商号を東洋証券株式会社に変更する。
1984年	4月	資本金31億500万円に増資し、総合証券となる。
1986年	6月	資本金59億2500万円に増資し、東京証券取引所市場第二部、大阪証券取引所市場第二部ならびに広島証券取引所に株式上場。
1987年	10月	香港に現地法人東洋証券亜洲有限公司を設立。
1988年	3月	東京証券取引所市場第一部、大阪証券取引所市場第一部に指定される。
1993年	12月	中国株式の取扱いを開始。
1998年	12月	証券取引法の改正に基づく登録を受ける。
2005年	5月	東洋証券亜洲有限公司が香港証券取引所参加者資格を取得する。
2005年	8月	本店を東京・日本橋から東京・八丁堀に移転する。
2007年	9月	金融商品取引法に基づく第一種金融商品取引業の登録を受ける。
2008年	5月	中国上海市に上海駐在員事務所を開設。
2014年	12月	滬港通制度による上海A株の取扱いを開始。
2016年	12月	深港通制度による深圳A株の取扱いを開始。
2018年	1月	金融商品取引法に基づく第二種金融商品取引業の登録を受ける。
2019年	7月	カスタマーセンターを設置。
2021年	4月	ビジネス・ソリューション部を設置。金融商品仲介業(IFIA)支援サービスを開始。
2022年	4月	東京証券取引所プライム市場へ移行。

1910年代：創業者 斉藤正雄が広島県呉市で証券業を開業

東洋証券の歴史は、1916(大正5)年、広島県呉市で株式取引を目的に開業した「斉藤正雄商店」を源流とするものであった。開業当初の斉藤正雄商店は電話を1本引いただけの従業員ゼロの小さな店だった。その頃の呉の街は、株商いについては未開の地であった。しかし、呉市は、日本屈指の軍港であり会社経営者や地元の名士、有力者などが少なくなかった。斉藤正雄は誠実さと人の心を捉えて離さない人柄で、少しずつ事業を拡大していった。



呉で創業当時の斉藤正雄



呉市での創業時代。オートバイに「公債株式現物問屋」とある



『広島株式取引所四拾年史』より

1940年代：戦後再建に向け、商号を「広島証券」に変更

1945(昭和20)年8月15日、終戦を迎えた広島証券商事は、直ちに会社再建に取り掛かった。だが、社屋は全焼し、資金もゼロに近かった。11月に入り、創業者の自宅跡地にバラックの自宅兼事務所が建てられた。営業再開を目指し、事業資金を集め、翌1946年、営業再開を果たす。5月には、銀山町の焼け跡に社屋を再建し、軍隊から復員してくる社員も少しずつ増えて、社内に活気が戻ってくる。1947年7月には商号を「広島証券株式会社」に変更し、新社屋を建設し移転。新しい時代にふさわしい事業体制が整った。



戦後の本店。原爆投下により社屋が壊滅したが、戦後、再建した



広島証券本店営業部(現在の広島支店の前身)



広島証券取引所での入社式

1960年代：本店を東京に移し、東京証券取引所正会員として活動を開始

1960年代に入り、政府は金融の自由化、効率化を目指して法整備を進め、銀行業界では合併や業務提携が加速した。中堅・中小の証券会社にとって、生き残りのための規模拡大は、必須条件であり、合併も避けては通れない問題となっていた。そうしたときに持ち上がったのは、東京の名門証券会社である高井証券との合併話である。当時は、証券業界の発展のために4大証券に次ぐ中堅証券会社の必要性を説く論調が語られており、そうした機運の高まりもあり、1967年3月に広島高井証券が誕生した。商号変更と同時に、本店を東京に移転。経営基盤の強化により、東京および関東圏での顧客サービスの充実が可能となり、収益構造が大幅に向上した。



合併当時の本店



広島証券時代の山口支店



広島高井証券の株券



地域との繋がり



マツダスタジアム
フェンスの企業
広告掲載



広島ドラゴンフ
ライズ協賛



牡蠣不漁支援

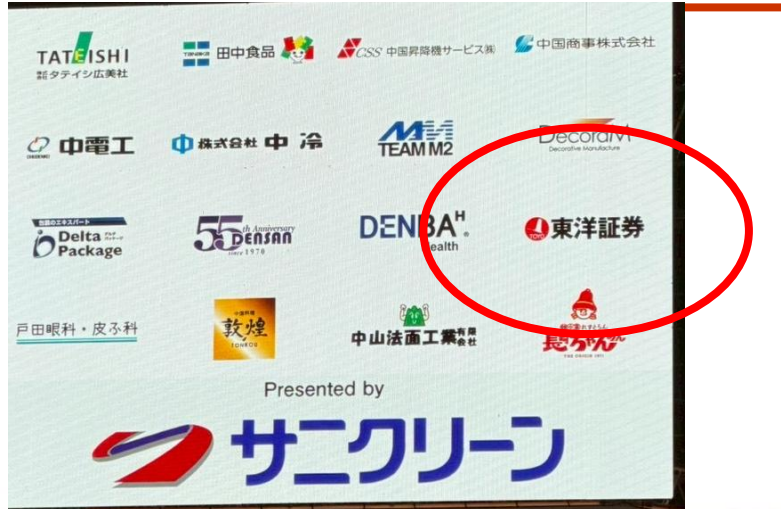
マツダスタジアムフェンスの 企業広告掲載



スポンサードゲーム開催



広島ドラゴンフライズ協賛



牡蠣不漁支援



2026年2月14日(土)15日(日)開催
広島城本丸・二の丸・三の丸・西堀 他
入場無料!

**広島城
オイスターフェス
2026**

東洋証券

東洋証券は
「広島城オイスターフェス2026」を通して
広島かきと養殖業者を応援します!



広島かき応援ブース





110th 

ANNIVERSARY

110年の感謝を、地域の未来へ繋ぐ。